

令和6年度 上田市立神川小学校 自己評価シート

資料17-2

学校教育目標	めざす児童の姿（中期的目標）	総合評価	
考える子	1 一人で、みんなで考えられる子	外へ出していく活動、交流活動、お話を聞く学習などが再会し、目指す児童の姿に近づける活動に制限がなくなった。一人で考え、その後みんなで考えるという話し合い活動もしやすくなっているが、コロナ下の3年間分を徐々に取り戻している時期である。外部講師の招へいや外へ出でる活動、みんなで話し合う活動が思う存分できるようになったため、成果として挙げている職員も多かった。学んだことや取り組んだことが、家庭に伝わっていないという実態もわかった。情報発信もしながら、家庭でも話題にあげてもらう工夫の必要性も感じている。保護者に7月と12月の2回アンケートを実施したことは、意識の変化を探るうえで参考になっているので継続していきたい。	
心の美しい子	2 自他の良さを感じられる子		
たくましい子	3 1人で、みんなで心と身体をきたえる子		
今年度の重点目標	成果と課題	A B C D 改善策・向上策	
① 学ぶ楽しさが味わえる授業	楽しさを味わえるように、導入を工夫したり、教科担任制を導入したりできたことは成果。仲間と関わり合いながらの授業を今後も目指していく。	○ 教科担任制を導入する教科や単元をさらに増やしていく。教師対子どもの授業ではなく、子ども同士が関わり合っていく授業を目指していく。	
② みんなとつながる活動	児童会行事や学校行事を中心に、同学年だけでなく他学年との関りや良さを認め合う活動は良い機会となった。年度末や新学期にある学校行事・児童会行事を大切にしていく。	○ 6年生を育てる意味からも、児童会で企画運営する行事ができるようには場と時間を確保していく。主体的な交流活動ができるようにする。	
③ 心と身体を育む体験・交流	スーパー神川っ子の時間が定着してきたことが成果。異学年と交流しながら楽しむ時間を定期的に確保していく。不登校対策としても効果が出ている。	○ 楽しさを味わえる異学年交流の時間「スーパー神川っ子」を中心に、人と触れ合える時間を確保して交流することを大事にしていく。	
領域 対象 評価項目	評価の観点	成果と課題 A B C D 改善策・向上策	
学校教育	学習の基本	①「神川スタンダード」「学びのユニバーサルデザイン」全学級で大切にする学習の基本の実行 ○授業一時間の学習の流れを提示し、めあてとまとめの板書を書くことのパターン化ができてきた。 ●個別の支援が必要な児童がいるが、その子にあった教材や指導法が見つからないことがあった。	○ 「神川スタンダード」「学びのユニバーサルデザイン」を意識しながらも、特性のある子に寄り添えるような指導法を校内研修等を活用して、さらに進めていく。
	学習環境	②「多様な学習形態」ペア・グループ・複数教員・教科担任制による児童指導 ③「特別支援学級」「かんがわ教室」「日本語教室」「ことばの教室」個に合った学びの場の提供 ○教科担任制を取り入れる学年・回数が増えており、様々な視点から子どもを見ていくことができている。ペアやグループでの活動を教科担任制の中でもできるだけ取り入れていく。 ●個に寄り添った学びの場が多くあることが、不登校減少などの要因と考えられるが、クラスの活動としては個人の進度に差が出てしまう。	○ 教科担任制の継続し、導入単元を増やしていく。教科担任の授業の中でもペア学習・グループ学習を多く取り入れられるようにしていく。
	多様な動きの習得	④「身体みがき体操」「運動の場づくり」年間を通して多様な動きの習得 ⑤「Rainbow Walking」を利用した歩行の分析と改善 ○体育の授業の導入、朝の会の時間などで簡単な体つくり運動やRainbow Walkingで教わった体操を行えている。「楽しんで体を動かしている」と自己評価で回答した児童が9割以上となっている。 ●Rainbow Walkingで測定したことが、まだ実際には生かしきれていなさい。	○ 毎朝ではなくても、体つくり運動を定期的に位置付けて実施していく。Rainbow Walking 2年目に向け、良い活用方法を探っていく。
	その他	⑥スタートカリキュラム、MIM、小中連携による「小1の壁」「中1の壁」の最小化 ⑦教科の枠を超えた、学年のつながりを大切にした「メディア教育」「安全教育」「性教育」の推進 ○上田市で取り組んでいる小中連携の算数の成果として、中学校現場の先生が実際に授業を行ってくださるため、6年生にとっては中学校での学習の見通しが持てている。 ●メディア教育を参観日等で実施して好評であったが、一度の授業では大きく改善には至らないため、継続して指導していく。	○ 年間計画として学年で実施する内容について、もれのないように見通しを持って計画し、必要であれば外部講師を依頼していく。
	生活指導	あいさつが響き合う学校 ⑧「あいさつ」「なかよし学年」を中心とした児童会活動の実施 ⑨家庭・地域・学校が一体となったあいさつ活動 ○なかよし学年を意識して、委員会の連絡や活動など、高学年として引っ張ってこうという気持ちを引き出せた。職員・児童会・学級を中心とした啓発活動を続けていく。 ●自主的なあいさつは個人差を感じている。家庭や地域と連携したあいさつ活動ができていない。	○ 名前を呼んでのあいさつができるように、靴のかかと部分への記名を家庭に呼びかけの継続。クラス替えや上級生になることを意識し、異学年とのあいさつを心がけていくように呼びかける。
学級経営	「なかよし週間・月間」学級づくり・仲間づくり 子ども理解 ⑩「なかよし週間・月間」重点的になかよし・自他の良さについて考え深める ⑪「神川っ子」や月に一度、学年の枠を超えた「スーパー神川っ子」で交流を深める ⑫「児童理解の時間」やスクールカウンセラーとの連携による子ども理解 ⑬相談ウィーク（年3回）による情報の共有 ⑭「学びのとびら」「神川ギャラリー」「神川小展覧会」各学年の活動・作品を紹介する場づくり ○なかよし月間には委員会ごと交流や仲良くなるための企画が全委員会でできた。ただし、負担にならない程度にしていく必要はある。 ○スーパー神川っ子で下級生とも楽しく関わっている姿が見られた。なかよし学級での交流の際に、親しく関わっている。 ○相談ウィークで、率直に話を聞くことができる機会を今後とも大事にしていく。一人ひとりと向き合って話す機会を確保していく。 ●相談ウィークの時間を確保するための工夫が必要である。	○ 相談ウィークがより有意義な時間となるように、相談時間を確保できるよう、5・6時間目の使い方を工夫する。	
家庭との連携	家庭との関り PTA活動 ⑮保護者懇談会年2回による情報の共有 ⑯各家庭でのルールを明確にしたメディアコントロール ⑰学級懇談会の充実 ⑱保護者の負担軽減を意識した時代に合わせたPTA活動 ○保護者懇談会年2回実施が定着してきた。担任以外の先生との懇談希望者が昨年を上回る数となり、相談できる場を確保できた。 OPTAにおいては、ここ数年に渡り仕事を省き、本当に必要な仕事を焦点化してきたことで、負担軽減につなげられている。今後も検討していく。 ●懇談会への参加者が少ない。全体へ周知できる場となっていない。 ●メディアコントロールについては家庭により取組の差を感じる。	○ メディアコントロールウィークの最終が3学期にあるので、期間中に今年度の振り返りをし、今後の目標も定める。年度初めに所持率が上がることに備える。	
学校運営	地域とつながる奉仕・交流活動 ⑲「国分寺史跡公園全校清掃」「上田養護学校との交流」等地域とつながる活動 社会に開かれた学校 ⑳神川ボランティアや見守り隊との連携 ふるさと学習 ㉑地域の方から学ぶ、多様なクラブ活動 ㉒神川に学ぶ「ふるさと学習」の継続と深化 ○上田養護学校との交流がとても楽しかったらしく、企画することに興味をもつことができた。 ○給食ボランティア、休み時間のボランティアルーム活用が軌道に乗ってきている。 ○各学年地域素材や特色を生かした活動ができている。養護学校交流もコロナ前のようにできるようになり、盛り上がる交流ができた。 ●見守り隊が減少している。保護者へも見守りへの協力を促していく。	○ 各学年・学級で特色ある活動のまとめを行い、地域素材を生かした学習の楽しさや成長した自分に気づかせていく。	
研修	職員研修 ㉓・授業改善・地域学習・人権教育・ICT教育の充実 ○日々の授業につなげていきたい。 ○金曜日の5時間授業が有効。月に1回程度の研修とし、負担のないように実施していく。	○ 得られたQ-Uの結果を有効活用し、児童理解に役立てていく。気になる児童には声掛け等をしていく。	

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった